

平成 29 年度禅文化歴史博物館紀要刊行のご挨拶

駒澤大学禅文化歴史博物館長 飯塚 大展

平成29年度末より、新たに竣工した種月館の運用がはじまり、多くの学生がその施設を活用するようになり、華やかな彩りを増したように感じられます。その新しさと対をなすように、かつての大学図書館である耕雲館は、禅文化歴史博物館として瀟洒なたたずまいを見せています。

長谷部八朗学長は、伝統と文化を重んじる本学の顔として、禅文化歴史博物館の重要性を強調されてきました。その大きすぎる期待に応えるべく、私たちは身の引き締まる思いで業務を全うしたいと考えています。

さて、文化財の保存管理は、博物館の果たすべき最も重要な使命であり、我々日々取り組むべき業務ですが、更に今日求められているのは、文化財の一般公開を中心とする社会貢献ではないかと思えます。次年度より、禅文化歴史博物館は事務組織が改組され、禅ブランディング推進係が新設されます。建学の理念を体現し発信する部署の一つとして新たな使命が付与されたことを重く受けとめています。今後、禅文化歴史博物館はいかにあるべきか。その未来図は容易には画くことは出来ません。展示施設の一新も含めて、開館20周年に向けて、文化財をどのように見せるかと言う事にこだわって行きたいと思えます。それはICT機器の活用をはじめとする、文化財のデジタル化、データベース化も視野に入れるべきではないかと考えています。

文化財の蒐集については、狭隘な収蔵庫と限られた予算の中で、禅文化歴史博物館の独自性を構築し得るかという事に苦悩して参りましたが、本年度は当局ならびに理事会の英断により、良寛の小品二点（問答歌、書簡）を購入することが出来ました。当面の蒐集方針として、良寛ならびにその周辺の文化財の蒐集に注力して行きたいと考えています。また、立体資料として仏像の蒐集ももう一つの柱として行きたいと考えています。もちろん、本年度購入致しました「永平道元禅師行状之図」のように、道元禅師関連資料の蒐集も視野に入れて行きたいと思えます。新収蔵品については、今後も研究を続け、その成果を禅ブランディングのホームページにおいても発信する予定です。一方、蒐集に関しては、別の方法も模索しています。第一段階として大学関係者、曹洞宗寺院、さらには一般篤志家からの寄贈・寄託に対応出来る体制づくりにも着手出来ればと思えます。

最後に、研究教育活動に関して、学内における教育研究と展示とを緊密に結びつける場として、禅文化歴史博物館が機能し得ないかと考えています。そのためにはより高度な専門的知識を有するキュレーターの存在が不可欠ではないかと思えます。教育について言えば新入生セミナー、学芸員資格講座、などの教育プログラム、禅文化歴史博物館が主催する公開講座、博物館セミナーなど、その位置づけを再検討し明確化する必要があると思えます。

課題は山積していますが、決して希望は失っていません。前途茫洋、方処を絶した体ですが、それでも日々是れ好日たらんと精進し、着実な一步を踏み出したいと思えます。